

会 議 録

平成 26 年 7 月 17 日 調製

審議会等名	平成 26 年度 第 1 回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 26 年 7 月 11 日(金) 午後 2 時～3 時 45 分
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>宮島泉委員長 五十嵐章雄副委員長 山川幸治委員 横田真由美委員 津々木稔委員 本井晴信委員 倉品章委員 田村光子委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>長谷川生涯学習課長 渡辺文化振興係長 伊藤文化振興係主任</p> <p>【指定管理者】</p> <p>高須館長 菊崎業務責任者 佐藤副責任者 竹内副責任者</p>
協議題	<p>(1) 平成 25 年度の図書館利用状況について</p> <p>(2) 平成 26 年度 4 月以降の利用状況について</p> <p>(3) 第 2 次三条市子ども読書活動推進計画の進捗状況について</p> <p>(4) その他</p>
生涯学習課長	(あいさつ)
各委員	(自己紹介)
生涯学習課員	(自己紹介)
図書館員	(自己紹介)
宮島委員長	協議題(1)「平成 25 年度の図書館利用状況」についての説明を求めたい。
図書館長	(「平成 25 年度の図書館利用状況」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
本井委員	「怪談図書館」や「ちょっと怖い話」などの企画について、どのようなところに題材を求めているのか。必ずしも全て地元に関わる話しというわけではなさそうだが、具体的なことを聞かせてもらいたい。
竹内副責任者	「怪談図書館」では、京極夏彦の絵本と小泉八雲の「怪談」を選んでスタッフが朗読した。「旅する図書館」では、旅に関するエッセイや紀行文の中からスタッフが候補を挙げて、その中から朗読に協力していただいたボランティアの方が選んで朗読をした。いずれも郷土にまつわる作品に限定することなく選んだ。
本井委員	図書館に勤務しており、利用者からの問い合わせなどに応じて古い新聞を探したことがある。その際に、大正 6 年の地元紙に県内各地の怖い伝説が 50 回ぐらい連載されているのを偶然見つけた。下田の奥の話もあったような気がする。参考になるようであれば、できるだけ早いうちにコピーを取って差し上げたい。
図書館長	是非、お願いいたします。
宮島委員長	ほかに意見や質問があれば発言ください。

倉品委員	平成19年度から25年度までの図書館利用状況について、統計資料に基づいて1年ごとの推移の説明があった。ところが、三条市の人口は、はっきりした数字を覚えていないが減ってきている。このような中で、統計的な数値に捉われ過ぎて、利用者数がじり貧だというような分析はしない方がよいのではないかと思う。図書館に何回も来ているが、むしろ沢山の方がいらしているように感じている。
図書館長	<p>私どもを力づけていただくようなご意見を頂戴したと、ありがたく思っている。数字は嘘をつかないもので、集計して推移を比べてみた結果を協議会委員の方にご報告して状況を認識していただきたく提示させていただいた。</p> <p>励ましの言葉を頂戴したので、僭越だが読売新聞の今年の7月2日に載っていた「図書館の利用者、右肩上がり」という記事を紹介させていただきたい。</p> <p>「図書館の利用者は右肩上がりで増えています。日本では2010年に年間1億8,756万人が利用しており、国民1人あたり年1.5回利用している。」とのことで、「図書館の数自体も増えていて、2011年度に全国で3,274施設、2000年初頭より500施設以上増えている」と記載されている。</p> <p>ここで、敢えて言わせていただきたいのは、国民1人あたり年1.5回というのが全国平均だが、三条市立図書館の昨年度の利用者は33万人以上となっている。三条市は10万人都市と言われているので、全国平均の1人1.5回に対して、三条は3.3回ぐらいと全国平均の倍以上ご利用いただいていることになる。</p> <p>倉品先生から図書館は賑わっているというお話があったとおり、全国平均からすると賑わいはあるかと思う。一方、やはり過去の実績からすると、ここでしっかり踏み留まらなくてはいけないと思っている。自戒の意味も込めて説明させていただいた。</p>
宮島委員長	ほかに意見や質問があれば発言ください。
津々木委員	いろいろな行事を開いているが、子どもたち向けの怖い話とか参加人数がもう少し増えてもいいと感じている。どう方法で案内しているのか聞かせてもらいたい。
竹内副責任者	<p>怖い話を夏休みの毎週火曜日に実施した。今年も同様に開催する予定でいる。</p> <p>行事の広報に関しては、小学生向けの図書館だより「よむよむ」を市内公立小学校に配布している。その中に図書館カレンダーを掲載して図書館で開催される行事をPRしている。また、館内にポスターを掲示している。加えて、月毎の行事などの予定を掲載したチラシを作成のうえカウンターで配布している。</p>
津々木委員	三条市に子どもたちが8,000人近くいる中で、参加者数がもう少し増えてもいいのかなと思った。広報を工夫したら参加者数が伸びるのではないか。
図書館長	私どもも知恵の足らないところがあるかと思う。「こんなルートもある」などの知恵を是非貸していただければと思う。よろしくお願いします。
宮島委員長	何かお気付きの方法とかあれば、いつでも図書館に申し出てください。
田村委員	ブックスタート事業について聞きたい。10カ月健診のときに健診会場に行って親子向けに読み聞かせを実施することで、赤ちゃんのときから絵本に親しんでもらうのは素晴らしいことだと思っている。私も支援のほうで行くと、ねんねの赤ちゃんとか来られる。どのような本を読み聞かせしているのか。また、赤ちゃんの反応はどうか。10カ月だと喜んで絵本に興味を示してくるのは少々難しいかなと思っている。私も支援のほうで、小さい赤

	ちゃんが来られるとちょっと困るかなと思っていることもあり、参考までに具体的な内容を聞かせてもらいたい。
図書館長	ブックスタートへの協力を目的としたボランティアの方にも参加していただいている。そこで、その方たちと絵本を選定している。生涯学習課ご担当の伊藤主任も交えて、図書館から提案した中からブックスタートにふさわしい絵本を選定している。
竹内副責任者	本の種類は言葉が少なくて絵でわかるものとしている。いないいないばあを扱った『だあれだれだ』とか、『くだもの』は次々とページをめくるたびに違う果物が出てくるとか、赤ちゃんの興味を引くような本が多くある。お母さんに説明していると、赤ちゃんも絵が変わるのが珍しくて見ているという印象を受ける。
田村委員	ひとつの会場で何人ぐらいのお子さんが来るのか。
竹内副責任者	開催するごとに差があるが、大体毎月 60～70 名ぐらいが健診に来ている。いろいろな健診を受けて最後にブックスタートの会場に来る。そこにブースを3つほど設けて、3名のボランティアさんとスタッフが交替で対応している。
田村委員	では、一人で20人ぐらいの対応をしているのか。
竹内副責任者	健診が終わった方から一人ひとり来ていただくので行列ができることはない。
田村委員	1対1で対応しているのか。
竹内副責任者	1対1で対応している。
田村委員	1対1で20人に聞かせてあげているのか。
竹内副責任者	スタッフとボランティアと合わせて5～6名が、時々交替して対応に当たっている。健診は長い時間かかるので、60～70名が一斉に検診を終えて一度に来るということはない。検診が終わり次第、順次来るようになっているので列をつくって待っていただくことはない。
図書館長	幼稚園などに出向いて行うような複数の幼児を相手に読み聞かせを行うことはない。1対1でお母さんに説明や指導を行う。初めての絵本クリニックといった感じで実施している。
竹内副責任者	5冊用意した絵本の中から、その場で2冊を選んで持ち帰っていただいている。
田村委員	順番に終わった方から来ていただいて、絵本を説明したり読んであげたりしているということで了解した。
宮島委員長	ブックスタートは三条市で始めてから何年になるのか。
伊藤主任	開始してから10年ぐらい経つ。
宮島委員長	初めて絵本を受け取った子は中学生になるのか。
伊藤主任	ほぼ中学生ぐらいまでの年齢の子どもに絵本を配布したことになる。いま小学生の方は全員受け取っていると思う。
宮島委員長	長年続けて継続している良い活動であり、子どもたちの読書への第一歩になる。それが家庭で根付いてほしいと思っている。
田村委員	いま、他の市町村でも結構実施している。
宮島委員長	新潟でも始めている。
伊藤主任	今は多くの市町村で実施している。対象年齢が3カ月ぐらいの地区があったり、10カ月ぐらいだったりと対応に違いはある。

	<p>三条市では10カ月の健康相談会で実施している。『くだもの』という絵本と、『しろくまちゃんのほっとけーき』という絵本が基本セットになっている。お母さんと子どもさんと一緒に見ていただくと、子どもが反応するのがお母さんの目の前でわかる。そこで、お母さんの中で、「ああ、この子はもう絵本を読んでもいいのね」ということで、「絵本を読もうかしら」というふうな動機づけにもなるかと思う。また、対象に2番目、3番目のお子さんがだんだん増えてきたので、既に家にブックスタートで配布された絵本があるという方のために、今、5冊の本を用意して、その中でお子さんに一番合うものを選んでいただくことにしている。</p>
田村委員	それを差し上げるわけか。
伊藤主任	2冊プレゼントしている。街中に行くと、黒井健さんがラッコのイラストを描いた布製のトートバックを持っている方を見かけることがあると思う。それはブックスタートでお配りしているもので、「あそこのお宅もブックスタートをやったのね」ということで輪が広がっていかばと思っている。
田村委員	良いことだと思う。
伊藤主任	ありがとうございます。
宮島委員長	協議題(2)「平成26年度4月以降の利用状況」についての説明を求めたい。
図書館長	(「平成26年度4月以降の利用状況」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
五十嵐委員	<p>大人のためのいろいろな企画を実施することは非常に良いことだと思うが、さらに対象を絞り込んだ企画を実施できないだろうか。例えば、お子さんが小さい若いお母さん方に対象を絞り込むことができないだろうか。お母さんが本を読むようになれば、子どもたちも真似して本を読む家庭が多少は増えるかもしれない。それをベースとして、お母さんが図書館の行事に参加できるように家族が協力する。これは図書館だけではできないだろうが、市の広報とかで「家庭の日」というのもある。それから23日が読書の日とか、そういう日にはお母さんに暇をつくってあげて、そして読書する時間をつくりましょうといった、そういうキャンペーンをベースとしてはどうだろうか。</p>
図書館長	<p>今のご提案を参考にして、何か、家庭で読書をする時間と余裕を持ちましょうというような、何かそういう働きかけをさせていただきたいと思う。ご意見、ありがとうございました。</p>
五十嵐委員	<p>山川先生に相談するが、例えば図書館だよりの「よむよむ」の説明を終業式に図書館の職員の方から、一言、これを見ているいろいろ書いてあるよというような案内をしてもらうのはどうでしょうか。</p>
山川委員	可能だと思う。
五十嵐委員	<p>せめて図書館の近くにある三条や裏館といった、この周りの小学校に職員の方が行って、5分だけ時間をくださいということで一言説明したら、図書館に来る子どもたちが増えるのではないかと思う。</p>
図書館長	<p>具体的で、実効性の高い貴重な意見を頂戴しまして、ありがとうございます。</p>
宮島委員長	<p>近くに住んでいて自分で図書館に来ることができる子どもたちには、できるだけ図書館を上手に活用してもらいたい。併せて、図書館から少し離れた地域の子どものために自動車文庫などを充実させていただきたい。</p>
宮島委員長	<p>協議題(3)「第2次三条市子ども読書活動推進計画進捗状況」についての説明を求めたい。</p>

伊藤主任	(「第2次三条市子ども読書活動推進計画進捗状況」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
倉品委員	<p>1 点目として、5 番の件の数値を見るとデータが非常に少ないという横ばい状態にある。これに対する何か手を打つとか指導とかはあるのか聞きたい。</p> <p>2 点目として、私も少し関わったことがあるが、担当教員の負担が非常に大きい。そこで、PTA の方からご協力いただいてボランティア化して進めたことも実際にあった。それも大変だが、他の市町村を見ると学校司書を配置して、核となってボランティアの組織化を進めているところが非常に成功している。このような事例を幾つか知っている。これは予算的なこともあるので難しいとは思いますが、そういったことは全く視野にないのか少しは考えているのか、どうなのだろうか。学校司書を配置することは、市町村や県の判断によるというところはあるものの、法律で決まっている。新潟市は着実にやっている。市町村の財政的なこともあるだろうが、三条市の基本的な考え方はどうなのか聞きたい。</p> <p>3 点目は、「第2次三条市子ども読書活動推進計画」がもう終わるが、27 年からの第3次計画の見通しはあるのか聞きたい。</p>
生涯学習課長	<p>私のほうから、三条市の基本的な考え方について説明したい。</p> <p>各学校の学校図書館の蔵書データ化について、私が7年ぐらい前に教育委員会にいたときから、法律上の対応を求められていた。また、図書館のある学校は学校司書を配置しなければいけないということに法律上はなっている。ところが実際配置されているかというところ非常に少ない。今年度、予算について教育委員会が要求はしている。臨時協議もしている。</p> <p>まず学校の蔵書にラベルを貼るなどしっかり管理して、子どもたちが自由に手に取ることができる本が電算化システムに載っているようにする。我々のときも、その電算化処理のための方策を考えたが、相当お金がかかる部分があって、なかなかそこに到達していない。でも、それでは困るということで、教育委員会の教育総務課で予算要求はしっかりしていたが、現実としては教育委員会が予算権を持っているわけではないため、実態としては未だそこには至っていないが、そういった考え方はしっかりある。</p> <p>また、私も教育委員会に長くいたので、学校図書館の部分についてはぜひ実現をしていただきたいと思っている。例えば、裏館小学校にある本が第一中学校にはないとしても、電算化システムがラインで結ばれていれば借りることができるように、本来子どもたちが自由に検索をしてできるようにする。そのために、本を綺麗にファイリングしたり、整理をしたりすることを学校の先生に全てやれというのは無理がある。あくまで教師は子どもたちのメンタルといった教育活動に本来時間を当てていただきたい。教師は雑務が非常に多いので、市の教育委員会がしっかりサポートしていかないと、一人ひとりの子どもたちに向き合う時間が取れない。このことを私たちは十分承知している。教育長も一生懸命やっている最中だと思っている。</p>
伊藤主任	担当として、「第3次三条市子ども読書活動推進計画」を実施する方向で検討していきたいと思っている。皆さまにご意見等をお伺いする場が設けられるようになればと思っている。その際はよろしく願います。
宮島委員長	倉品委員の発言にあったとおり、来年で5年目ということになる
伊藤主任	来年改定することになる。

宮島委員長	<p>今年も実績数字を見て何かしらの判断が出ることになるので、また次の報告を待ちたいと思う。</p> <p>親子読書の日に私たちも多少関わっている。何とか認知度を上げるために、いろいろな案も出たりした。また図書館のほうでも本当に一生懸命取り組んでいるが、それが数字に表れないのが残念なところではある。</p>
倉品委員	25%だと思ったが、よく見たら小数点が入って2.5%となっている。
伊藤主任	5歳児の保護者の方、460人から回答を頂いたうち認知している方が11人ということで2.5%という結果になった。
宮島委員長	どうして年長の保護者を対象として回答を求めているのか。
伊藤主任	最初に作成したときに年長の保護者の方に聞いたため、以降も継続して同じ対象としている。対象が難しかったかとも思うが、何らかの働きかけをしていければと思っている。
宮島委員長	5歳児の保護者以外で、図書館に足を運んでくださる方には浸透しているのではないかと気がする。この結果で判断されるのは残念だと思う。
田村委員	異なる対象に回答を求めていけば、認知度が上がったかもしれない。
伊藤主任	策定のときに年長さんにアンケートを取って聞いたこともあり、比較するというで同じ保育所の年長さんに聞かせていただいたところ、このとおりの数字になっている。
倉品委員	結局お母さん方にしてみると、23日は何なのか、何をやる日なのか、何が他の日と違うのかといった意識があるかもしれない。その日は親子で本を読もうという日なのか、それが何なのか分からないのではないかな。
生涯学習課長	<p>ご指摘のとおり、23日という特定の日を継続的にPRする必要があるかもしれない。</p> <p>子どもさんが生まれて間もない回復期にある方へのPRは難しいかもしれない。また、共稼ぎの家庭が多くなっているため、例えば土曜や日曜以外で仕事をしているときだと、おばあちゃんやおじいちゃんと来たりだと親子にならなかつたりする。</p> <p>なかなか社会形態と合わなくなっている部分があるかもしれないが、親子やお母さんがイベントに来られるようにしたい。例えば子どもと一緒に参加することができないようなイベントが公民館等であった場合に、子どもを預けるような、例えば保育所の先生やボランティアの方に対応していただくことで、お母さま方が自由に講座を学ばれるというようなことを考えて実際にやったこともあるが、なかなか数字が上がらないこともあった。同じ懸念があるのかもしれないと思いながらも、全国的に見れば、うまくいっているところも絶対にあるだろうと思っている。先進的な事例を調べる必要があると思っている。</p>
宮島委員長	カラー刷りダイジェスト版の「本で育む生きる力」を初年度のときに全校に配布した。その後、毎年それを使った啓発を行っているのか。
伊藤主任	公民館とか施設とかに設置を依頼して不足があれば補充するようにしている。図書館などに置くようにする。
宮島委員長	<p>この冊子は、23日は親子読書の日であることをはじめ市としての読書活動普及への取り組みや啓発活動を1冊にまとめてある。</p> <p>例えば、この5年間に結婚して子どもさんが生まれて、ブックスタートに初めて来られるようなお母さんたちは見てない可能性がある。せっかく作ったのだから形だけのものにならないで、もう一度基本に戻り活用してもらいたい。</p>
伊藤主任	ブックスタートのときに配布していただくとか相談させていただければと思う。

山川委員	<p>学校の現場の様子を紹介させていただきたい。</p> <p>各学校で読書週間を行っている。この読書週間の中で、この日は例えばテレビを見ないで学校から持ち帰った本や図書館から借りた本を、お父さんやお母さんとか読んで話題に挙げましょうというようなことを、おそらく小学校でも中学校でも年に1回なり2回なり実施している。これはずっと昔からやっていることなので紹介させていただいた。</p> <p>それから、先ほど司書の関係の話が出たが、12学級以上に司書教諭を置くことが確か法律で決まっている。私のところは幸い12学級以上なので司書教諭の資格を持った方が複数名いる。そこで、学校の校内分掌の中で、その人を中心として図書館の運営を行っている。お金を頂いて本を買ったときに、それをデータ化するための入力を、司書教諭を中心にして、みんなで時間をかけて実施して記録していくといった取り組みをしている。これが学校での実態で、おそらく第一中学さんなどでも司書教諭の資格を持った方がいらして、相応の図書館経営を実施していると思う。</p>
宮島委員長	<p>推進計画の最後の年ということで、もう一度初心に立ち返って出来るところからまた進めていっていただけたらと思う。</p> <p>それでは、協議題(4)「その他」として報告などあれば発言ください。</p>
伊藤主任	(生涯学習課より、「めざせ！しかけ絵本日本一プロジェクト」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
山川委員	私は校長会の折に栄へ行くことがあるが、親子、お母さんと子どもたちの利用が多いので、これは素晴らしい企画で場所的にも素晴らしいと思う。
伊藤主任	ありがとうございます。
山川委員	それから、31ページにある関連イベントの中で、絵本の制作というのがあるが、ぜひ、これは制作だけでなく、作った絵本を紹介していただけるとありがたい。
宮島委員長	ほかに質問や意見があれば発言ください。
田村委員	しかけ絵本は、子どもたちにとって紙芝居とかパネルとかと違って、引っ張ったり、はぐったら何か違うものが出てくるみたいなのがとても魅力的だと思う。そういう絵本を栄分館だけに置くのだろうか。何かイベントのとき借りることはできるのか。
伊藤主任	<p>協賛金とかクラウドファンディングで集めたお金で買ったものについて、基本的には栄分館に置かせていただきたいと思っている。予約をしていただいて下田分館に取り寄せてもらったり、本館に取り寄せてもらったりすることもできるようにしたい。</p> <p>「すまいるランド」に来ているお母さんたちで、なかなか図書館に寄らないという方も多いと聞いている。「すまいるランド」で子どもが遊んでいるだけで、携帯をずっといじっているお母さんが多いと聞いたりするので、少しでも図書館に寄っていただきたい。絵本を最初から「一緒に読むように」と勧めても難しいかもしれないので、しかけ絵本というものを親子で一緒に楽しむことが、本に触れ合うきっかけになればと思っている。</p>
田村委員	下田のほうで読み聞かせのときに借りて、それを子供に見せてあげるということもできるのか。
伊藤主任	貸出対象になっていれば対応できる。
田村委員	しかけ絵本は買うと結構高いのではないか。
伊藤主任	いろいろなものがあるが、「すまいるランド」の対象年齢を考えて、その年齢のお子さんに合ったものを揃えていきたいと思っている。しかけ絵本なので壊れることが想定され

	るため、図書館と一緒に修理の勉強会みたいなものもできればと考えている。
田村委員	楽しみにしている。
伊藤主任	ありがとうございます。よろしくお願いします。
宮島委員長	まだ実行委員を募集中なので、図書館協議会委員の中で興味があり参加してみたいという方は、ぜひ手を挙げてください。 他に報告などがあれば発言ください。
図書館長	長谷川課長から冒頭のあいさつでお話いただいたとおり、本年度、図書館の貸出や蔵書管理のためのコンピューター・システムを更新する。アイリスという名称の現行の図書館システムを、生涯学習課のご配慮でバージョンアップして一番新しいものにしていただくことになっている。来年1月に蔵書点検期間と併せて、システムの入替えと現行データの新しいシステムへの移行を行い、来年2月に新しいシステムをスタートするという計画で進めている。私どもが指定管理を受けて初めての新しいシステムへの乗り換えとなる。慎重を期して、皆さまに喜んでいただけるような新しいシステムを稼働させるように努めたい。ぜひご理解とご支援を頂戴できればと思う。
宮島委員長	協議題(4)「その他」として通知などあれば発言ください。
図書館長	次回の図書館協議会の開催要領について提案したい。 前年度の第2回目を近隣図書館の見学会とした。よその図書館では当館と違った工夫とか、地域の特性に合わせた取り組みをしていて、当館をご指導いただくうえでも参考にさせていただけたと思っている。加えて、参加者相互の情報交換の機会としても役立てていただけたと思っている。については、本年度も近隣図書館の見学を計画したい。
宮島委員長	了解した。
図書館長	追って、具体的な日程等をお知らせするので、よろしくお願いします。
宮島委員長	これをもって、平成26年度第1回図書館協議会を閉会とする。